

下野市立薬師寺小学校

1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成

～関わり合いを通して、対話に必要な表現を豊かにする授業の創造を目指して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

市の「小中一貫教育推進研究学校指定事業」を受け、「しもつけ未来学習」を基盤とし、英語学習を中心としたコミュニケーション能力の育成を目的として2年間研究を進めてきた。昨年度までの研究の成果として、児童が「話したい」「伝えたい」とする「内容」を意識させて対話活動をさせることで、対話が活発になることが分かった。また、導入でのスモールトークが、児童の活動の理解や意欲付けに効果的であることが分かったことも成果であった。

本年度は、研究の3年目として、昨年度までの成果を生かし、関わり合いの中で自分の思いや考えを豊かに表現する力を身に付けていくためのより効果的な方法を研究することにした。

(2) 研究の仮説

児童自らが話したい、聞きたいと思うような必然性のある関わり合いの場を意図的に設定することで、児童が主体的に表現できるようになったことは昨年度の成果であり、今年度も継続して取り組んでいく。具体的には、授業の導入ではHRTとALTのスモールトークを見せたり、高学年では児童を交えてスモールトークを行ったりして、児童に活動の理解や意欲付けを行う。

また、今年度は活動の途中で一人一人が思考したり考えを表現したりする時間を「中間振り返り」として確保することで、児童の「話したい」という気持ちに共感し、主体的に表現することにつなげていく。そのような授業を追求していくことで、児童が主体的に表現し、伝え合う児童の育成ができるであろう。



3 研究内容

(1) 外国語科・外国語活動・英語活動における児童が主体的に伝え合う授業づくり

①「目的や場面、状況」の設定

目的や場面、状況を設定することで、コミュニケーションにおける「思考力・判断力・表現力等」を働かせることを意識した授業づくりを行った。昨年度の成果でもあったスモールトークを継続し、身近な場面設定をすることで、児童が親しみをもって意欲的に活動に取り組めるようにした。

②深い学びを追究する「中間振り返り」の設定

活動の中で、「言いたくても言えなかった」という児童の思いを学級全体で共有したり、考えていく時間を確保したりした。児童の思いに教師や児童同士が寄り添うことで、より活発な対話活動につなげていくことを意識した。

(2) 研究授業検討会や研究授業協議、校内研修の充実

①低・中・高学年の3つのブロックに分け、研究授業を3回実施した。ブロックごとに研究授業についての検討会や事前授業を行い、授業改善をした上で要請訪問を実施した。研究授業

協議では少人数での話し合いを取り入れ、活発に発言できる雰囲気作りを心がけた。また、授業者には予め授業の視点を絞ってもらうことで、充実した検討会になるようにした。

②5・6年生による外国語科では、評価についてどのように行っていけばよいかという悩みがあった。そのため、6年生の研究授業後の研究協議では、評価規準と評価の仕方について、タブレットで撮影した児童が活動している様子を観察し、評価とその理由について研究協議を行った。

③校内研修として「目指す葉小っ子の姿」を教師同士が考えることで、本校の抱える課題を全体で意識した上で、学校課題に取り組んだ。また、S&U コラボ事業を活用し、先生方に授業づくりに役立つ実践的な講話をしていただき、学んだことを日々の授業づくりに生かすようにした。

(3) 研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
7/16	1年	「Food」 (食べ物)	<ul style="list-style-type: none"> ・フードコートという場面設定をしたスモールトークを取り入れ、児童の活動への意欲を高める。 ・「中間振り返り」では、児童の気づきを共有し、その後のやり取りに生かす。
9/14	6年	Lesson5 「What country do you want to visit?」	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を意識し、単元のゴールを元に単元計画を立てる。 ・旅行代理店の店員となり、「友達が行きたくなるような国紹介をしよう」という目標を設定し、「思考力、判断力、表現力等」を働かせる。 ・「中間振り返り」では、児童の伝えなかったことについて共有し、その後の活動が深まるようにする。
12/16	4年	Unit 6 「Alphabet」	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットクイズをして、クリスマスのかざりを手に入れるという目標を設定し、児童の意欲が高まるような活動を設定する。 ・「中間の振り返り」では、児童がうまくいった表現を取り上げ、その後の対話活動が深まるようにする。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・日頃の授業で「目的や場面、状況」の設定を意識したことで、主体的に自分の考えや気持ちを英語で表現する児童が増えた。
- ・活動の目的をしっかりと児童に意識付けることにより、児童の思考が深まることが分かった。
- ・「中間振り返り」では、児童の思いを共有することで、次の活動がより活発なものになることが分かった。また、担任が児童の授業のゴールの姿を意識することで、中間振り返りの方向性が定まることも分かった。また、教師間で中間振り返りについて協議を重ねたことで、中間振り返りの有効性を実感することができ、日々の授業で生かすことができた。
- ・低・中・高学年全て研究授業を行ったことで、学年間のつながりや系統性を意識することができた。特に高学年では評価について焦点を当てたことで、評価について考える良い機会となった。評価方法にはタブレットの使用も有効であることが分かった。

(2) 課題

- ・伝え合うことにまだ抵抗を感じている児童も多い。「失敗したくない」という気持ちが強い子にどのような手立てをしていくとよいか今後の課題である。
- ・主体的な対話活動は外国語科だけでなく他教科でも必要なことなので、伝え合う児童の育成は教科横断的に行っていく必要がある。

